

令和 7（2025）年度

## 海外研修参加者の英語力伸長度調査・報告書

（データ提供：IR センター 文責：海外研修担当副学長 西村直樹）

## はじめに

本学国際教養学部では、カリキュラムの一環として、原則 2 年生全員が 2 年次後期に海外研修（留学）に参加します。学生は研修先大学の英語プログラム等にフルタイムで所属し、英語力に応じた授業を受けるとともに、1 学期間を通して自由研究論文を含むポートフォリオ（15,000 ワード以上で構成される課題集）を作成します。

海外研修の主たる目的は、次の 5 点です。

- 1) 異なる言語・文化・価値観を理解する能力（異文化理解力）の育成
- 2) 異文化を持つ人々と建設的かつ協調的な人間関係を構築するコミュニケーション能力の育成
- 3) それらの能力を基盤として課題を発見する力（課題発見力）の育成
- 4) 自らの結論を導き出すクリティカル・シンキング力の育成
- 5) 実践的英語運用能力の育成

本報告書では、特に「5）実践的英語運用能力の育成」に焦点を当て、令和 7（2025）年度海外研修参加者を対象として、TOEIC Listening & Reading Test の得点を指標にその伸長度を検証しました。

## 1. 分析対象データ

| 区分         | 入学時   | 留学前   | 留学後   | 留学前後の伸び |
|------------|-------|-------|-------|---------|
| Listening  | 234 点 | 286 点 | 324 点 | +39 点   |
| Reading    | 158 点 | 196 点 | 216 点 | +20 点   |
| Total      | 391 点 | 481 点 | 541 点 | +59 点   |
| 最高点（Total） | 670 点 | 740 点 | 815 点 | —       |
| 最低点（Total） | 275 点 | 280 点 | 270 点 | —       |
| 有効人数       | 18    | 19    | 18    | —       |

海外研修期間：2025 年 8 月～12 月（1 学期間・約 4 か月）／参加者：19 名。入学時および留学後は各 18 名、留学前は 19 名のスコアを集計しています。

## 2. 留学前後の TOEIC スコアの変化

図 1 (Figure 1) に、留学前・留学後の TOEIC 平均点を Listening (495 点満点)、Reading (495 点満点)、Total (990 点満点) ごとに示します。

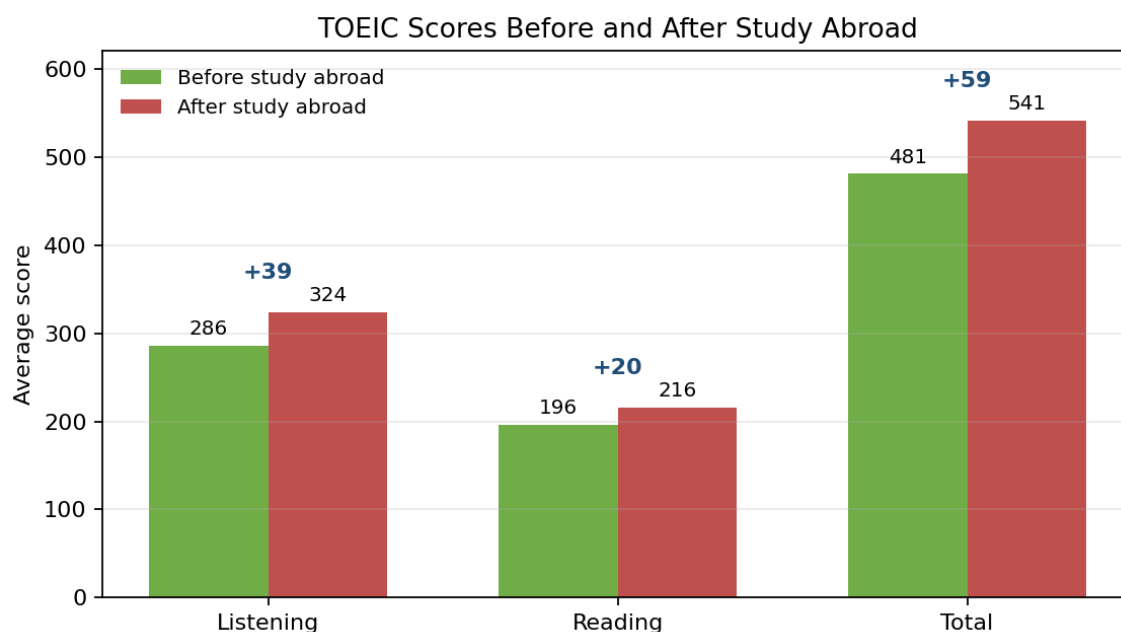


Figure 1. Changes in TOEIC Scores (Before and After Study Abroad)

Listening の平均点は 286 点から 324 点へ 39 点、Reading は 196 点から 216 点へ 20 点伸びました。その結果、総合得点 (Total) の平均点は 481 点から 541 点へ 59 点上昇しました。伸びの約 3 分の 2 を Listening が占めており、今回も Reading より Listening の伸長が大きい傾向が確認されました。

留学前には、参加者 19 名中 12 名 (63%) が 500 点未満でしたが、留学後は有効受験者 18 名中 8 名 (44%) に減少し、10 名が 500 点以上を達成しました。また、留学前後の両方にスコアがある 18 名のうち 15 名 (83.3%) で総合得点が上昇しました。

| Total 平均  | 500 点以上    | 個人別上昇     |
|-----------|------------|-----------|
| 481 → 541 | 7 名 → 10 名 | 15 / 18 名 |
| +59 点     | +3 名       | 83.3%     |

### 3. TOEIC 成績の分布 (Total、Listening、Reading)

以下に、留学前後の Total の得点分布 (Figure 2) ならびに Listening と Reading の得点分布 (Figure 3) を示します。

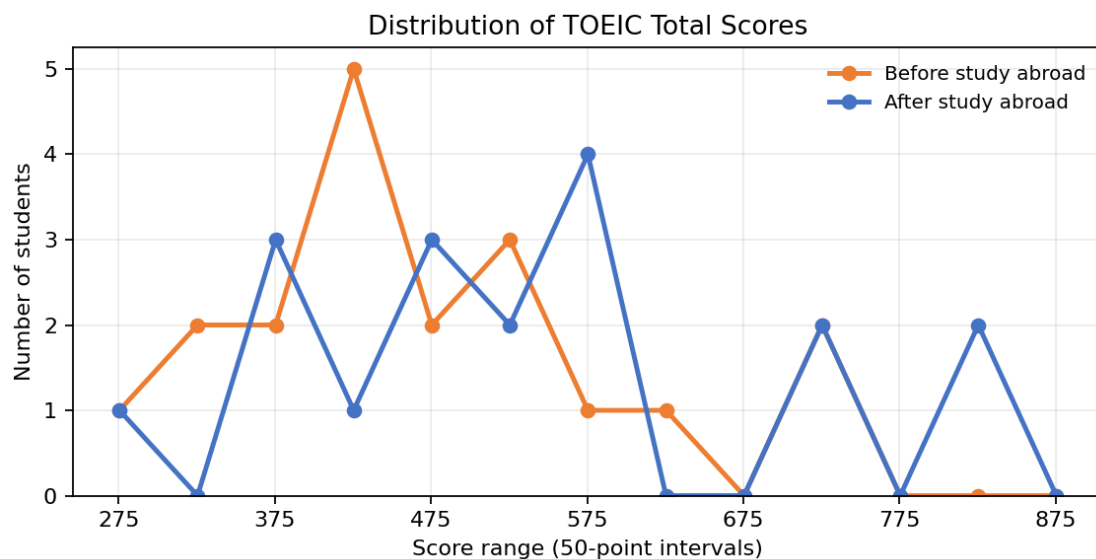


Figure 2. Distribution of TOEIC Total Scores

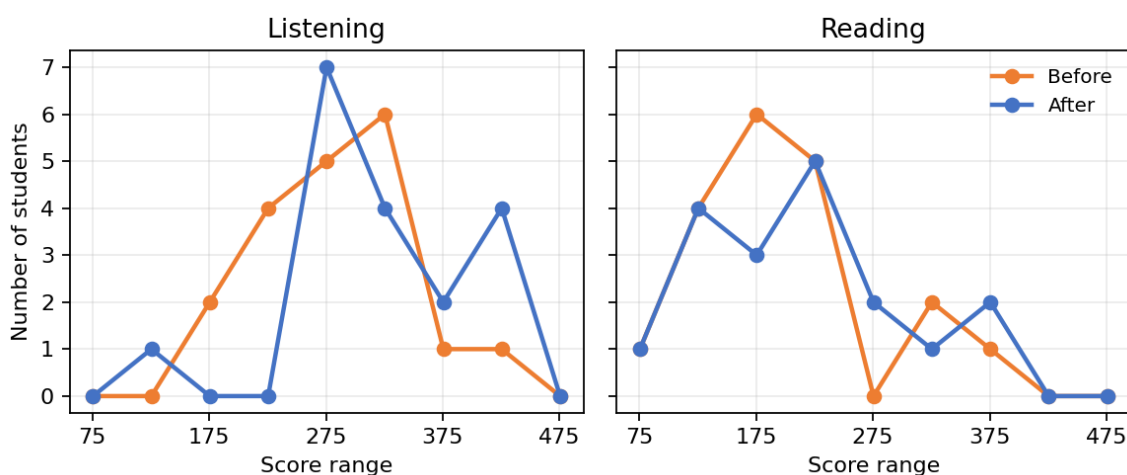


Figure 3. Distribution of TOEIC Listening and Reading Scores

留学後の Listening は全体として高得点側へ移動し、18 名中 17 名が 250 点を超えました。一方、Reading は留学後も 250 点未満の学生が 13 名 (72.2%) を占めています。海外生活やホームステイ等を通じて英語を聞き、実際に応答する機会が増えたことが、Listening の伸長に寄与したものと推察します。

Reading の向上には、海外で英語に接することに加え、英文構造 (文法)、語彙・表現の習得、継続的な読解練習といった自発的・能動的な学習が必要です。今後は、研修中の学習課題やポートフォリオ指導において、Reading に係わる学習をより明確に位置づける必要があります。

## 4. 入学時・留学前・留学後の TOEIC スコアの推移

図 4 (Figure 4) に、入学時から留学前、留学後に至る平均スコアの推移を示します。なお、各時点で有効人数が異なるため、入学時から留学後までの差は、同一学生を完全に追跡した伸長率ではなく、各時点の集団平均を比較した参考値です。

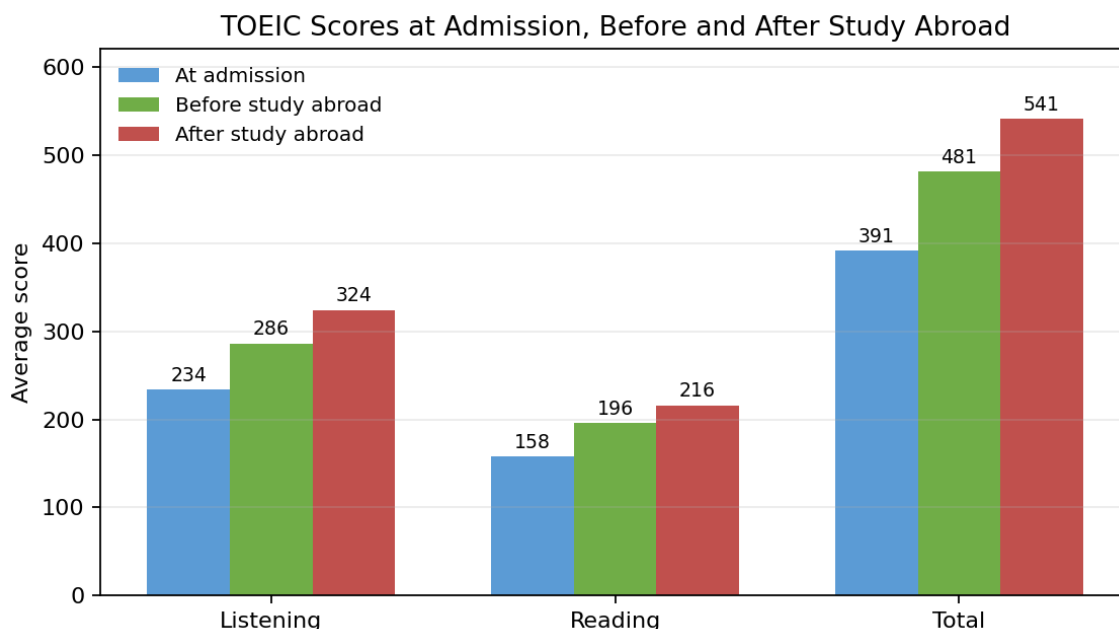


Figure 4. Changes in TOEIC Scores (At Admission, Before and After Study Abroad)

集団平均では、Total は入学時 391 点から留学後 541 点へ約 150 点上昇しました。Listening は 234 点から 324 点へ約 90 点、Reading は 158 点から 216 点へ約 58 点上昇しており、入学後の学修と海外研修を通じた継続的な伸長が認められます。

## 5. 分析上の留意点

参加者 19 名のうち、留学後スコアが得られたのは 18 名です。このため、表および Figure 1 の「+59 点」は、留学前 19 名の平均 481 点と留学後 18 名の平均 541 点との差です。同一 18 名のみで比較すると、Total の平均伸長は 56.1 点 (Listening : 36.1 点、Reading : 20.0 点) となります。両方の算出方法で全体的な上昇傾向は確認できますが、数値を解釈する際には母数の違いに留意する必要があります。

## おわりに

本報告書では、令和 7 (2025) 年度海外研修参加者の「実践的英語運用能力」の伸長度を、TOEIC スコアを指標として検証しました。その結果、総合平均点の上昇、500 点以上の学生数の増加、ならびに個人別に見た多数の学生の得点上昇から、海外研修が英語力の向上に一定の効果を有することが確認されました。

一方、Reading の伸びは Listening に比べて小さく、留学後も 250 点未満の学生が多いことから、研修中の自律的な語彙・文法・読解学習を促す指導方法や教材の整備が引き続き課題です。また、海外研修の目的として掲げる異文化理解力、コミュニケーション能力、課題発見力、クリティカル・シンキ

ング力についても、客観的な成果指標の検討を継続する必要があります。今後も、データに基づき海外研修プログラムの教育効果を検証し、その最大化に向けた改善を進めてまいります。

出典：IR センター提供「TOEIC 国際教養学部 2024 年度入学生分析 2026-0513」および「海外研修前後の TOEIC 成績の比較（令和 7 年度）」（教育研究評議会、2026 年 5 月 22 日）。